

# 小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	23	施策名	工業の振興	
小施策コード	23-3	小施策名	企業集積と生産基盤の拡充促進	
小施策 主管課等コード	136000	小施策 主管課等名	ものづくり推進課	
評価責任者名	北田 雅浩	内線番号	3770	
評価シート作成者名	吉田 金一	内線番号	3771	

## Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績* <sup>1</sup>	31年度 目標値* <sup>2</sup>	36年度 目標値* <sup>2</sup>
製造品出荷額等	↑	千万円	10,171	10,107	—	10,511	11,017

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

\*<sup>1</sup> 29年12月に工業統計調査の結果が公表されるため，28年度実績は空欄となっている。

\*<sup>2</sup> 計画策定時は，速報値を当初値に用いて目標値を設定していたが，確定値が目標値を超えたため，平成28年度に目標値を変更している。

## Step 2 小施策の全体像

小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
製造業等	工業団地への集積が進み，企業間連携や企業の設備等が拡充し，生産の効率化が図られる。
現状と課題	地域の特性を生かした工業振興を実現するため，産学官連携研究センターなどの市の新技术・新製品開発拠点を活用する企業のほか，組込みソフト・IT関連産業，食料品製造業などの企業が市内へ立地することが求められていることから，これら企業の立地を進めるため，安価で交通アクセスに恵まれた新たな工業用地の整備が求められている。
取組の方向性	企業が操業しやすい環境を整備するとともに，市街化区域内の低・未利用地の利活用などにより新たな工業用地を確保し，企業誘致を推進する。

### Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (現状値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
工場等新設拡充促進事業補助金の累積利用件数	↑	件	13	18	32	55	110

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

### Step 4 市民ニーズの把握

市として企業誘致，地場企業の事業継続・事業拡大が進み，雇用の創出につながり，地域経済が活性化するよう取組む必要性が生じている。

### Step 5 役割分担分析

#### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	新たな企業の誘致や企業の集積が図られるとともに企業の設備投資が進み，生産性の効率化により事業継続・拡大が図られるよう取組む必要がある。	50
	国・県・ 他自治体		
	市民・ NPO		
	企業・ その他	行政をはじめ各種機関と連携し，事業革新や新事業に取組むなど，雇用の創出や産業の振興を図る必要がある。	50

#### 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

(理由)

市が積極的に企業の工場や設備等の新設拡充を推進することで，企業の生産性の向上や市内への入居・立地希望企業数の増加に繋がり，最終的な製造品出荷額等の増加・製造業の振興になることから現状維持とするもの。

## Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

### 1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

- ・ 工場等新設拡充奨励補助事業については、企業訪問等により施策に係る情報発信を行い、市内企業の設備投資の更なる促進に努める。
- ・ 盛岡テクノパークの残地については、工場等新設拡充奨励補助事業の活用を含めた金融機関や相談窓口等での継続的なPRに努めるとともに、入居企業の用地拡充の方向性も併せて検討していく。

### 2 1の改革改善案の実施状況

(A：着手済, B：平成29年度に着手(予定含む), C：未着手または見送り)

改革改善案	具体的な取組(予定)内容	状況
工場等新設拡充奨励補助事業の拡充	企業訪問により、施策に係る情報発信をしており、引き続き事業者への情報発信と市内企業の設備投資の更なる促進に努める。	A
盛岡テクノパーク残地の利活用	相談窓口や業界機関紙への掲載等でのPRを実施しており、引き続き継続的なPRを実施する。	A

### 3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

## Step 7 成果・問題点の把握

### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策の中で成果をあげた点

全体での利用企業数は22社60件と昨年度実績より減少しているが、新規に対象になった企業も1社あった。

#### (2) 成果をあげた要因

企業立地担当と工業振興担当が一緒に企業訪問を行うなど、情報共有ができたことにより効果的な情報提供ができるようになった。

#### (3) さらなる成果向上に向けた課題(課題がある場合に記載)

### 2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策における現状の問題点

製造業等の新たな企業立地が進んでいない。

#### (2) 現状の問題点が生じている原因

製造業等の企業誘致の受け皿となる産業等用地が不足しているため。

#### (3) 分析した原因の解決に向けた課題

産業等用地整備を行う。

## Step 8 小施策と構成事業の関係性

- 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業  
該当事業なし。
- 2 1で記載した事業についてその理由
- 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

## Step 9 Step7, 8を踏まえた改革改善案

平成28年度に策定した盛岡市新産業等用地整備基本計画に基づき、スピード感をもって新たな産業等用地整備に取り組む。